



# 畑作・野菜・花き生産情報 第7号

令和5年10月20日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎ 大豆は、ほ場ごとの適期収穫で良品生産に努めよう！
- ◎ 小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しよう！
- ◎ ながいもは、適期収穫で良品生産に努めよう！
- ◎ 秋ギクは、病害虫の防除を徹底し、親株は適切な温度管理をしよう！

## 畑作物

### 1 大豆

#### (1) 生育状況

地域やほ場で成熟期のばらつきが大きい。  
早いほ場では成熟期となり、収穫作業が始まっている。

表－1 大豆の生育状況（10月17日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)
農 林 総 合 所 研 究 所 ( 黒 石 市 )	本 年	5/25	6/5	7/21	未達
	(平年差)	(±0日)	(±0日)	(6日早)	—
	平 年	5/25	6/5	7/27	10/11
	前 年	5/25	6/5	7/20	10/6
野 菜 研 究 所 ( 六 戸 町 )	本 年	5/15	5/23	7/20	未達
	(平年差)	(±0日)	(2日早)	(6日早)	—
	平 年	5/15	5/25	7/26	10/13
	前 年	5/16	5/25	7/27	10/13
藤 崎 町 ( 西 中 野 目 )	本 年	6/1	6/10	7/23	10/11
	(平年差)	(2日早)	(3日早)	(6日早)	(5日早)
	平 年	6/3	6/13	7/29	10/16
	前 年	6/6	6/17	7/27	10/24
五 所 川 原 市 ( 金 木 町 嘉 瀬 )	本 年	6/13	6/21	7/31	未達
	(平年差)	(6日遅)	(6日遅)	(±0日)	—
	平 年	6/7	6/15	7/31	10/13
	前 年	6/10	6/19	7/30	10/12
十 和 田 市 ( 切 田 )	本 年	6/5	6/12	7/27	10/6
	(平年差)	(2日早)	(3日早)	(8日早)	(11日早)
	平 年	6/7	6/15	8/4	10/17
	前 年	6/12	6/20	7/31	10/18

注) ①品種は「おおすず」

②平年値は、農林総合研究所が過去17か年、野菜研究所が過去16か年、藤崎町が過去12か年、五所川原市が過去10か年、十和田市が過去22か年の平均値

## (2) 今後の留意点

### ア 収穫適期の目安

コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下(主茎の中央部を爪でこすっても、表皮が乾いてむけない状態になった頃)、子実水分20%以下となった時期である。

### イ 収穫

(ア) 収穫が遅れるとしわ粒や紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場は計画的に刈取る。

(イ) ほ場内の雑草や青立ち株は汚損粒の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。

(ウ) 収穫は、朝露等による湿りがない時間帯(一般的には午前10時~午後4時)に実施する。

(エ) コンバイン収穫では、土のかみ込みによる汚損粒の発生を防ぐため、無理に地際部まで刈取らない。

(オ) 倒伏したほ場は別刈りを行い、品質向上に努める。

### ウ 乾燥調製

(ア) 乾燥は、検査規格の子実水分15%以下に仕上げる。

(イ) 乾燥を始める初期子実水分はできるかぎり、20%以下にする。また、乾燥速度は0.3%/時以下のゆっくりとした速度で乾燥し、急激な乾燥は避ける。

(ウ) 高水分の場合は通風乾燥を行い、20%以下になってから温度をかける。

## 2 小麦

### (1) 生育状況

は種後の生育は、おおむね良好である。

### (2) 今後の留意点

ア 湿害や雪腐病を防止するため、明きよの設置など排水対策を徹底する。

イ 耐倒伏性の向上や凍霜害の回避のため、10月下旬から11月中旬にローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田など排水の悪いほ場では、生育が阻害されるので行わない。

ウ 雪腐病の防除のため、登録のある薬剤を11月中旬から下旬に散布する。なお、散布後に一度積もった雪が溶けても再散布の必要はない。【平成15年度指導参考資料：小麦の雪腐褐色小粒菌核病及び紅色雪腐病に対する水和剤による茎葉散布時期を参照】

エ 越冬後の追肥は基本的に2回行う。1回目は消雪後から幼穂形成期に、2回目は止葉抽出期から出穂期に実施する。1回当たりの追肥量は窒素成分で2kg/10aを基準とする。

# 野菜

## 1 ながいも

### (1) 生育状況

ア いもの生育は、平年に比べいも長、いも重は上回り、いも径は下回っているもののおおむね順調である。

イ 病害虫は、炭そ病や葉渋病、一部でナガイモコガ、ハダニ類の被害葉が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (10月10日現在)

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	10月10日			
					茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜 研究所	本年 ( <small>平年差・比</small> )	5/25 (±0日)	6/23 (1日早)	7/14 (6日早)	576.6 (105%)	95.8 (125%)	1,505.7 (108%)	59.8 (87%)
	平年	5/25	6/24	7/20	552.4	76.6	1,389.5	69.1
	前年	5/25	6/26	7/17	558.8	78.1	1,455.7	71.2
五戸町 上市川	本年 ( <small>平年差・比</small> )	5/2 (9日早)	6/14 (1日早)	7/7 (1日早)	— (—)	102.0 (117%)	1,268 (97%)	55.7 (89%)
	平年	5/11	6/15	7/8	—	87.4	1,309	62.3
	前年	5/8	6/18	7/7	—	87.8	1,244	60.6
東北町 子ノ鳥平	本年 ( <small>平年差・比</small> )	5/5 (7日早)	6/1 (5日早)	7/10 (±0日)	— (—)	95.3 (136%)	1,300 (132%)	56.4 (102%)
	平年	5/12	6/6	7/10	—	70.0	982	55.5
	前年	5/9	6/8	7/10	—	72.2	967	55.2

注) ①平年：野菜研は平成30～令和2年の3か年の平均値（種いもの頂芽の処理方法が異なるため参考値）  
五戸町は平成14～令和4年の21か年の平均値、東北町は平成25～令和4年の10か年の平均値

②種子：野菜研は園試系6の1年子（90～110g）ガンク切除（ガンク切除時期は植付30日前、令和2年までは植付15日前の頂芽切除）、五戸町は庄司系の2年子（120～150g）ガンク切除、東北町は庄司系の1年子（50～80g）頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm（3,472株/10a）、五戸町は畦幅120cm×株間22cm（3,788株/10a）  
東北町は畦幅110cm×株間23cm（3,953株/10a）

④調査日：五戸町及び野菜研の本年は10月11日

### (2) 今後の留意点

#### ア 収穫

(ア) 収穫は、11月上旬以降、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。

(イ) 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。

(ウ) 掘取りに当たっては、表皮を傷つけたり、直射日光や風に当たることがないように注意する。

#### イ 茎葉・ネットの適正処理

茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を

分別した上で適正に処理する。

## 2 秋冬だいこん

### (1) 生育状況

9月以降は温暖で日照時間が多く、適度な降雨もあったことから、平年並の収穫期となった。地上部、地下部とも平年をやや上回り、収量は平年をかなり上回った。

表-3 秋冬だいこんの生育状況 (10月10日現在)

調査地点	年次	は種期 (月日)	収穫時					収穫期 (月日)	収量 (kg/10a)	は種から収穫 までの日数 (日)
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)			
東北町 乙部道ノ下	本年	8/8	47.9	22.9	37.4	7.5	1,107	10/10	8,112	63
	( <small>平年差・比</small> )	(1日遅)	(105%)	(104%)	(109%)	(106%)	(103%)	(1日早)	(111%)	(2日短)
	平年	8/7	45.4	22.1	34.2	7.1	1,071	10/11	7,305	65
	前年	8/5	55.6	25.9	40.6	7.2	1,078	10/7	8,738	63

注) ①平年：平成13～令和4年の22か年の平均値 (本年から担当農家を変更したため平年、前年値は参考値)

②品種：S-139 (前年は「勇」)

③栽植様式：畦幅48cm×株間27cm、1条植え (7,716株/10a)

### (2) 今後の留意点

収穫は、ほ場毎に試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

## 3 冬のハウス栽培の留意点

- (1) 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
- (2) 二重被覆などにより保温効率を高めるとともに、暖房機の着火装置などの保守点検を行う。
- (3) ハウスからの放熱を防ぐため、被覆資材の破れを修復するほか、つなぎ目の隙間を塞ぐ。
- (4) 古い被覆フィルムは採光性が劣ることがあるので、透過性の高いものに替え、汚れが付着したフィルムは洗浄する。
- (5) ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど適正な温度管理に努める。

# 花 き

## 1 秋ギク

### (1) 生育状況

生育は良好であるが、開花は平年よりやや遅れる見込みである。  
病害虫はヤガ類やアブラムシ類が散見される。

表－4 秋ギクの生育状況（10月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
五所川原市	本 年 (平年差・比)	神 馬	7月10日 (5日遅)	117.2 (99%)	71.6 (110%)	2本仕立て
	平 年	神 馬	7月5日	118.1	64.9	2本仕立て
	前 年	神 馬	7月8日	122.9	60.7	2本仕立て

注) 平年：平成22～令和4年の13か年の平均値

### (2) 今後の作業

#### ア 病害虫防除

白さび病や灰色かび病の予防を定期的に行うほか、アザミウマ類等の害虫の防除を徹底する。

#### イ 収穫

2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により異なるため事前に確認する。

## 2 キクの親株育成

### (1) 今後の作業

#### ア 親株の整理

親株には、生育が劣る株、病害の感染が疑われる株、害虫の被害がある株を抜き取り、健全なものを用いる。

#### イ 親株の伏せ込み

伏せ込みは、10月下旬までに日当たりと排水の良いハウスで行う。11月にずれ込んだ場合は、活着を促すためトンネル等を設置する。

#### ウ 親株の伏せ込み後の管理

伏せ込み直後は、十分にかん水して活着を促し、活着後は5℃以下の低温に十分に遭遇させる。

白さび病及び灰色かび病の予防やアザミウマ類等の薬害防除を定期的に行う。

本年度の畑作・野菜・花き生産情報は今回で終了します。

来年度は4月から発行する予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。  
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！  
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、適正に使用しましょう。
  - 農林水産省「農薬情報」  
[https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
  - 農林水産省「農薬登録情報提供システム」  
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「農薬ではない除草剤（農薬ではない、非農耕地専用などと記載）」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
  - 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。  
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。  
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
  - 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
  - 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。
- ※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら  
→[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai\\_eiseikanri.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html)



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

1 農業経営収入保険

青色申告実施者を対象に、品目の枠にとらわれずに、農業経営者ごとの収入全体を見て、自然災害による収入減少だけでなく、価格低下なども含めた収入減少を補填する保険です。

< R 6年分の申込期限が間近に迫っています >

個人経営の場合 継続の方：11月末まで 新規の方：12月末まで  
国の制度見直しにより、R 6年から制度が拡充されます。

- ①気象災害特例：被害した年の農業収入を上方修正し、補償範囲を拡充
- ②早期加入：加入時の青色申告実績期間を2年から1年に短縮  
R 5年に青色申告する場合は、R 6年から加入可能
- ③保険方式拡充：保険方式のみで9割を補償限度とするタイプの新設

## 2 農業共済

自然災害等による米、麦、大豆の収穫量の減少やパイプハウス等の施設の損害を補填する保険です。(農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済)

## 3 類似制度(ナラシ対策、野菜価格安定制度)との関係

### (1) ナラシ対策

補償範囲の重複する農業経営収入保険と同時に加入することはできませんが、農業共済とは同時に加入することができます。

ナラシ対策(単価の補償)を選択する場合は、農業共済(収穫量の補償)に加入し、様々なリスクに備えましょう。

### (2) 野菜価格安定制度

国の特例措置により、当面の間(原則2年間)、初めて農業経営収入保険に加入する方は、野菜価格安定制度との同時加入ができます。

なお、同時加入した方が、野菜価格安定制度による補填を受けた場合、国による二重助成を避けるため、その年の農業経営収入保険の補填金額が減額調整されます。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

---

## ◎秋の農作業安全運動展開中です(8月15日~10月31日)

秋の農繁期を迎え、農業機械等による事故を防止するため、県では、「秋の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ!安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

### <農作業安全のポイント>

- 1 トラクターやコンバインを使用する際は、転倒・転落を防ぐため、作業環境に危険な箇所がないか事前に確認するとともに、シートベルトやヘルメットの着用など、安全対策を行いましょう。
- 2 果樹の収穫などで脚立を使用する際は、転落防止のため、安定した場所に設置し、開脚部をしっかりと固定しましょう。
- 3 県内全域でクマの出没が相次いでいることから、クマの出没情報に留意し、作業中はラジオなど音の出るものを携帯するほか、単独での作業は避けましょう。
- 4 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけ合うとともに、万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入しましょう。

---

連絡先	農産園芸課 稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485

---